

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	(1) 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の編成 (2) 学習効果を高めるICTを活用した教育の開発と提供 (3) SSH教育の推進及び成果の発信 (4) グローバル人材の育成	① 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい教育課程の実践 ② ICTを活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究と実践及び効果の検証 ③ 探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及び国内外の教育機関との教育交流の持続可能なシステムの構築と継続 ④ 多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、交流の機会を創出し、国際性を培う。また、交流を継続する。	① 新教育課程の完成年度に向けての準備を進め、各科目の実時間数を可能な限り調整することで、授業の質の確保につなげる。 ② 授業の相互参観や年次研修の研究授業等を通して、教員間の助言や情報共有を密に行う。 ③ Meraki およびSSHメラーボプロジェクト部の取組により、高度な理数分野の研究成果の輩出および外部での発表会への出場の推進を行う。 ④ 姉妹校提携による国際的な交流活動および共同研究等、外国語の運用能力の向上や国際的な意識を高める取組を実施し、年度末に調査を実施する。	① 科目選択から時間割作成まで、シミュレーションに沿って計画通り進めることができたか。実時間数の調整が進んだか。 ② ICT活用指導力に関する教員アンケートの結果等。 ③ 研究が深まるように調査・実験を行った研究班の割合は昨年度と同等かそれ以上であったか。SSHに関する発信の積極的な閲覧の割合は昨年度を上回ったか。 ④ 国際性の交流活動および共同研究等により、外国語の運用能力や国際的な活動に対する意識は昨年度と同等かそれ以上であったか。
2	生徒指導・ 支援	(1) 自他を尊重し、多様性を認める社会を担う自立した人材育成 (2) 文武両道の堅持 (3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携	① 生徒一人ひとりが、自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任を弁えた行動をとれる姿勢や態度を育てる。 ② 学力向上進学重点校エントリー校における学びと行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。 ③ 校内の教育支援体制強化、支援力向上と共に、外部機関と連携活用する。	① 各種集会や行事等の活動を通じ、集団の当事者意識を高めるよう指導し、社会に貢献する態度を育む。 ② 生徒一人ひとりの価値・創造性を尊重し、多様性のある生徒会活動を計画立て、主体的に課題解決できるよう指導する。 ③ 安心して健康的な学校生活を実現できるよう、教育相談機能等を活用した支援体制の充実。支援力を高めるための職員研修を実施する。	① 生徒が当事者意識を持ち、責任ある行動を取り、地域からの苦情が減少したか。 ② 新たな企画を検討し、主体的且つ計画通り円滑な生徒会活動が行えたか。また、生徒活動内容満足度が80%以上か。 ③ 校内関係者や外部機関と連携を取り、組織的に問題に取り組み、早期に対応することができたか。また、月1回程度の生徒支援研修を実施できたか。
3	進路指導・ 支援	(1) 学力向上進学重点校エントリー校としての難関大学、スーパーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の構築と推進	① 正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせた多様なキャリア教育の構築と実践 ① 既存の取組における科学的、	① 模試や進路希望調査の結果など生徒の学習状況や最新の入試情報を生徒及び全職員に周知し、組織的な進路指導・支援体制を構築する。 ① インターンシップなどへの参加を促し、生徒のキャリアデザインを支援	① 各模試の結果分析や進路希望調査の結果分析を生徒及び全職員に周知できたか。 ① 最新の入試情報を提供し、担任や学年の職員の進路指導を支援できた

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
		(2) 高い次元での自己実現を目指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるガイダンスの充実と学習環境の整備	論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組の強化 ①教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実及び持続可能な校内体制の構築と指導実践の引継ぎ ②セルフガイダンス力を高める機会の提供や環境の充実	する。 ①夏期講習等において、生徒アンケートからニーズを把握し、より良い講座、受講しやすい講座を設定する。SSHとしての取組を踏まえた講習等の内容の充実、及び部活動との調整など環境整備を図る。 ②進路集会や進路通信及びキャリア行事を通して、これからの社会で求められる人間像を示しながら、生徒の学際的な興味・関心を喚起する。 ③SSRや自習スペースなどの学習環境を整備する。	か。 ①夏期講習及びSSH特別講座の受講者数、生徒アンケートの結果等。 ②生徒の視野や進路選択の幅を広げるキャリア行事を実施できたか。また、インターンシップの参加生徒は増加したか。 ③生徒の求めに応じた進路情報及び生徒の知的好奇心を引き出す幅広い知見を紹介できたか。 ④SSR、自習スペースの学習環境は整っているか。
4	地域等との協働	(1) 外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供 (2) ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実 (3) 本校教育活動のネットワークの拡大	①生徒による小中学校等への教育提供や外部機関との連携の場の創出 ②ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制整備と人材育成 ③地域や同窓会、PTA等の組織と連携した安全教育・防災教育等の実践 ④学校運営協議会の評価の活用	①探究活動やキャリア教育を支援する企業や人材による講演などを実施する。文化祭や学校説明会等を通じてSSHの取組を提供し、来訪者数の集計および実施後アンケートを行う。 ②日頃の教育活動や部活動の様子の記事を作成・更新するフローを見直し、こまめな情報更新ができる体制を構築する。 ③地域の防災関連団体や消防署と協力し、防災訓練を実施する。	①教育活動を支援する人材や企業を開拓できたか。教育活動の提供は地域の次世代が関心を高めるものであったか。 ②職員全体に情報発信を促す働きかけを行うとともに、月2回以上の情報発信・更新を行うことができたか。 ③地域と協働して防災訓練を実施できたか。
5	学校管理 学校運営	(1) 企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成 (2) 教員が教育に係る時間を確保する働き方改革の推進 (3) 計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備 (4) 事故不祥事防止の徹底	①企画会議と各組織・職員との双方向情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。 ②ICTの利活用をはじめ業務の効率化・スリム化を図り、「働き方改革」を推進する。 ③教育活動に資する環境整備及び安全確保を図る。 ④事故防止会議や研修を計画的効果的に行い、意識の徹底を図る。	①職員会議等で常に情報共有し、適切な人材配置や業務分担を行い、参画意識の向上を図る。 ②紙媒体の資料や文書をデジタル化することによるペーパーレス化により、会議等の効率化を図る。 ③デジタル採点の本格的導入に向け、各教科と調整を行う。 ④老朽化に伴う備品を更新し、教育活動の安全を確保する。 ⑤成績処理等の事故防止の徹底を図る。	①グループ、学年、教科等の連携を図り、学校教育活動の活性化と課題解決に繋がったか。 ②業務フローの見直しやデジタル化による業務効率化が実施されたか。 ③デジタル採点の導入実績、職員アンケートの結果等。 ④教育活動において老朽化等により安全に使用できない備品等が更新できたか。 ⑤定期試験の作成から返却までの保管等について、管理を徹底する。成績処理の運用、調査書等の作成等を適正に行い、事故防止に努める。

